

NATIONAL
DIET
LIBRARY
MONTHLY
BULLETIN
2025.7/8

国立国会図書館 月報



第 60 回貴重書等指定委員会報告
新たな貴重書のご紹介

科学技術資料紹介 原子力設計図集

万博の歴史をふりかえる
—電子展示会「博覧会 近代技術の展示場」—

国立国会図書館 月報

NO. 771/772
JULY/AUGUST 2025

CONTENTS

1 「怪獣実見譚」『お伽テール』所載
― 恐竜を追いかけて ―
今月の一冊 国立国会図書館の蔵書から

6 第60回貴重書等指定委員会報告
新たな貴重書の紹介

12 科学技術資料紹介 原子力設計図集

18 万博の歴史をふりかえる
― 電子展示会「博覧会 近代技術の展示場」 ―

17 館内スコープ

匠の蝶々結びを目指して

23 本屋にない本

『竹久夢二の美人画とモダンデザイン
― 美しいもの・可愛いもの ―』

24 NDL TOPICS

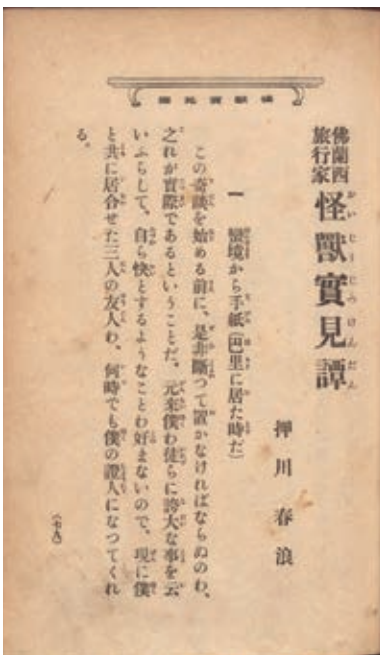


表紙：「涼しき装ひ」竹久夢二 画
『三越』第15巻第6号
三越 1925.6 26cm
<https://dl.ndl.go.jp/pid/1524610/1/4>

「怪獣実見譚」『お伽テーブル』 所載

— 恐竜を追いかけて —

藤元直樹



冒頭部分



扉



田代古崖（1882～1936）による挿絵

お伽テーブル

木村小舟編, 博文館, 明治42(1909), 312p; 20cm
<https://dl.ndl.go.jp/pid/1170100>

一九〇九（明治四二）年に十二人の作家と十二人の画家を集めて刊行された木村小舟（定次郎）編の『お伽テーブル』は、「巖谷小波」先生の門下や友人の諸氏が、各一篇のお伽噺を新作として、一冊としたもので、巖谷が開拓した新時代の児童読物のショーケースとも言うべき書物である。今回注目したのはその中の一篇、怪獣の挿絵が印象的な押川春浪による「怪獣実見譚」だ。

これはフランスの旅行家を語り手とした「生きていた恐竜」の目撃談だが、実は同じ話は同時期の資料に幾つも見える。

『お伽テーブル』刊行の前年、一九〇八年六月一五日の『報知新聞』は「怪獣退治——一時間に四十哩を走る」の見出しで「四千噸の汽船を借入れ本月アラスカに向ひ此怪獣を生捕つて直ちに倫敦に帰航せんと計画中」とする記事を掲載し、七月一日発行の『少年世界』が「前世界の怪獣」、七月五日発行の『探検世界』は、「怪獣退治」として短報を載せている。同月発行の『怪世界』にも「驚くべき怪獣退治」の項で同じ挿絵が見え、翌八月一日発行の『東西南北』は「報知新聞」の記事を、同五日発行の『科学世界』は「探検世界」の記事を転載しており、少なからぬ関心が寄せられる「ニュース」としてこの物語は流布していた。

これらの大元は、今日的にはフェイク・



「怪獣退治」『報知新聞』明治41（1908）年6月15日4面 <YB-18>

米国サンフランシスコの日系新聞『新世界』は7月8日に同記事を転載する。湯本豪一編『明治期怪異妖怪記事資料集成』国書刊行会、2009にも採録されている。



堀内新泉「前代未聞前世界怪獣目撃談」『探検世界』7(2),明治42（1909）年1月
大野静方（1882～1944）による挿絵
<https://dl.ndl.go.jp/pid/11186835/1/23>



『探検世界』6(3),明治41（1908）年9月
表紙絵「古代巨大動物のアラスカ出現」
<https://dl.ndl.go.jp/pid/11186830/1/1>（モノクロ）

ドキュメンタリーと呼ばれるであろうジョルジュ・デュピュイ (Georges Dupuy) による作品であり、仏語版は "Le Monstre de 'Partridge Creek.' " Je sais tout, 一九〇八年四月一五日号⁽⁶⁾、英語版は "The Monster of 'Partridge Creek.' " Strand magazine, 一九〇八年七月号に掲載されている。それがすぐさま日本に伝わっていたのである。

そして、実は押川春浪版の登場以前にも、ゾーグデユパイ「パートリツヂ入江の怪獣」『科学世界』臨時増刊科学叢書第三編、一九〇八年八月、堀内新泉「前代未聞前世界怪獣目撃談」『探検世界』一九〇九年一月としても紹介されていた。

物語は、一九〇八年一月二四日に前年のクリスマス・イブに「怪獣」に遭遇したという同年一月一日付の宣教師ラヴァノの手紙を受け取ったことを紹介し、遑って、自身による目撃談へと筆が進められる。あつという間に姿をくらました恐竜を追跡するため、デュピュイはドーソン市に赴いて五十人の武装集団を募ろうとするも、信用を得られず、地元新聞に「ポーの競敵」と題した嘲笑的な記事が出されたという結末である。

本当に新聞報道があったのかと調べると、関連記事は存在するが、全てデュピュイ作品の後追いで、しかも話は尾ひれ付きである。確認できた最初の記事は一九〇八年五月九



鈴木英四郎(華僑人)編『怪世界 珍談奇話』精華堂, 明治41 (1908) 年7月 表紙

仙洞隠士著『世界探険怪奇談』由盛閣, 明治42 (1909) 年6月、同『怪奇談 世界探険』盛陽堂, 大正7 (1918) 年2月は同書の紙型流用本と思われる。

<https://dl.ndl.go.jp/pid/885790/1/1> (モノクロ)



デヨーヂデユパイ「パートリツヂ入江の怪獣物語」所載『科学世界』1(臨時増刊/科学叢書第3編)(14), 明治41 (1908) 年8月 表紙 <https://dl.ndl.go.jp/pid/1501028/1/1> 口絵 <https://dl.ndl.go.jp/pid/1501028/1/3>



Georges Dupuy, "The Monster of 'Partridge Creek.'" *Strand magazine*, Vol.36 No.211, 1908年7月

<https://archive.org/details/TheStrandMagazineAnIllustratedMonthly/TheStrandMagazine1908bVol.XxxviJan-jun/page/n82/mode/1up>

日付の米国紙 *Evening star* に掲載されたフランス発信の English nobleman on a secret expedition to Alaska⁽⁴⁾。英国では米国発の配信記事として、主に五月二十日から六月上旬に各紙にほぼ同一内容の記事が掲載されているようである⁽⁵⁾。これが更に英国植民地の新聞へも配信されていたことは、シンガポール、オーストラリア、ニュージーランドの各国立図書館の各歴史的新闻データベース⁽⁶⁾で確認できる。これらのデータベースには過去紙面の全文検索機能が搭載されており、研究のためだけではなく、様々に楽しめるものなので、お試しになれることをお勧めする。

データベースに収載された範囲では、シンガポールとオーストラリアには六月、ニュージーランドには七月に記事が届いており、八月いっぱい、各紙への転載は続き、その多くに加えられていたのが、目撃談を受けウエストミンスター公が密かに恐竜狩りを計画しているというくだりである。

『報知新聞』の記事の「生捕り」云々は、こうした「報道」に基づくものだったのである。

大地を闊歩する巨大な生物への憧憬の念はどこから生じるのであろう。福井県立大学に恐竜学部が発足したというニュースも耳新しいところである。

古生物学の発展によって太古世界の想像図

『お伽テーブル』 タイトルの由来

『お伽テーブル』というタイトルにはどのような意味がこめられていたのでしょうか。本書の序文によれば、この一風変わったタイトルは、ヨーロッパに広く伝わるアーサー王伝説の円卓の騎士（当時は「武士」と訳された）に由来している。

アーサー王は、その結婚に際して、王妃の父から円卓が贈られた。円卓の中心にはアーサー王とその王妃が座る席があり、左右に6席ずつ合わせて12席、アーサー王の部下である勇敢な騎士たちが座ることを許された席が配置されている。アーサー王は、12人の気位の高い騎士たちの意見を平等に扱うため、常にこの円卓を用いて会議を行ったとされる。

本書の編纂の協議をするために、^{いわずがな}巖谷小波（1870-1933）を中心に茶話会を開いた際、その席上に大きな朱塗りの円卓があり、それを囲みながら相談したという。それで、即座に『お伽テーブル』というタイトルを定め、アーサー王の騎士に倣って、執筆の文士を12名としたというのである。

本書の広告文は次のとおり。「天より降りしか地より湧きしか、ここに一個の円卓あり、名づけてお伽テーブルと云ふ、大さ太陽に及ばずと雖 ^{おおき}和気六合に充つべく、之に従ふ文界の明星、十指に餘ること二、思ふ昔しアーサー王の朝廷に、卓を囲みし豪傑十二名と註せられ、当時円卓の武士とし聞かば、人々畏敬の念を起せしとかや、之は円卓の武士にはあらで、お伽文壇の文士の団欒、お伽テーブルの名を聞かば、天下百万の少年少女は吾も吾もと走せ進じて、^{たちま}忽ち可憐の人山を築き、喝采の声、拍手の響、地下のアーサーの眠や覚さん、^{みつくりげんばち}吁快又快！！」

序文を執筆した西洋史学者の箕作元八（1862-1919）は、「十二人の文士が、各々筆に花を咲かせた此の書物が、如何に日本の少年社会に歓迎され、そして如何に家庭の趣味を増進するかは、確かに円卓の武士の功に優ると信ずるのである。」と結んでいる。



目次

朱色のテーブルのような楕円形の上に目次が放射状に配置されている。



「お伽テーブル」の広告『実業少年』3(6), 明治42(1909)年5月 巻末

<https://dl.ndl.go.jp/pid/1785349/1/41>

タイトルの由来にちなんだ宣伝文句が軽やかに謳われている。

が描き出され、そこから生まれた異形の存在と実際に対峙してみたいという思いは、明治期から連綿と続いているようだ。

今日『お伽テーブル』を手に取る人も、その多くは「恐竜」に惹かれて、ではないだろうか。

- 参加者の顔ぶれは、巖谷小波+橋本邦助、西村渚山+太田三郎、沼田笠峰+岡野栄、押川春浪+田代古崖、海賀変哲+久保田金仙、高野斑山+名和永年、竹貫佳水+山村耕花、武田桜桃+山中古洞、黒田湖山+佐藤生果、久留島武彦+木村光太郎、福田琴月+宮川春汀、木村小舟+杉浦非水。他に序文箕作元八、口絵武内桂舟、表紙高村真夫。当館所蔵本は再製本されており元表紙を欠く。
- 木村小舟「小波先生お伽二十年史」巖谷小波 著、木村小舟 編『小波お伽百話』博文館、明治44（1911）
<https://dl.ndl.go.jp/pid/1919797/1/541>
- Gallica（フランス国立図書館）所載 <https://gallica.bnf.fr/ark:/12148/bpt6k1029821/f421.item>
- Chronicling America（米国議会図書館）所載 <https://chroniclingamerica.loc.gov/lccn/sn83045462/1908-05-09/ed-1/seq-23/#date1>
- British Newspaper Archive <<https://www.britishnewspaperarchive.co.uk/>> で検索可能。ただし記事自体の閲覧は有料。
- NewspaperSG（シンガポール国立図書館委員会）<https://eresources.nlb.gov.sg/newspapers/>
Trove（オーストラリア国立図書館）<https://trove.nla.gov.au/search/advanced/category/newspapers>
Papers Past（ニュージーランド国立図書館）<https://paperspast.natlib.govt.nz>

生きていた恐竜との遭遇譚の代表作

生きていた恐竜との遭遇譚の代表作といえば、アーサー・コナン・ドイルの『失われた世界』(The Lost World, 1912)になろう。こちらはアラスカではなく南米を舞台としている。日本でもストランド・マガジンの連載時から読まれていたようだが、その名が一気に広まったのは1925年公開のアメリカ映画『ロスト・ワールド』のヒットによる。現在知られる最初の邦訳は『新愛知』の新聞連載「亡なつた世界」(1915年7月27日～9月19日)。単行本としては1924年の宇月基訳『奇怪の足跡』新栄閣が最古のようだが現物の所蔵機関は見当たらない。それに続くのがここに示した『没落の世界』で、これもまた稀少な資料である。



コナン・ドイル 著, 新東信 訳『没落の世界』金剛社, 大正14 (1925)

(上) 表紙 <https://dl.ndl.go.jp/pid/919093/1/2> (モノクロ)

(右) 口絵 <https://dl.ndl.go.jp/pid/919093/1/6> (モノクロ)



諷刺漫画に描かれた恐竜

内外の新聞各紙は、デュピュイの恐竜目撃談に、ウエストミンスター公が密かに恐竜狩りを計画しているというくだりを付け加えて報じた。

当時の諷刺漫画雑誌『東京パック』の表紙では、恐竜が財政問題に擬せられ、「西園寺」が恐竜に喰えられている。ちょうど西園寺公望から桂太郎に首相が交代した時である。その脇には「軍刀研^{サアベルとき} 一生懸命に大軍刀を研いで居る、果たして能く前世界遺物の巨獣を退治し得るや否や 記者曰、ケツトソーラスは前世界の巨獣長七十尺 此頃アラスカに於て其生存せるものを発見し、ウエストミンスター公は之を捕へんか為に四千噸の船を擬装せり」というキャプションが付されている。

発足したばかりの第2次桂内閣の閣僚たちが巨大な軍刀を研いで、ウエストミンスター公の恐竜狩りよろしく前世界の遺物である恐竜(前内閣が遺した財政問題)に立ち向かおうというのである。



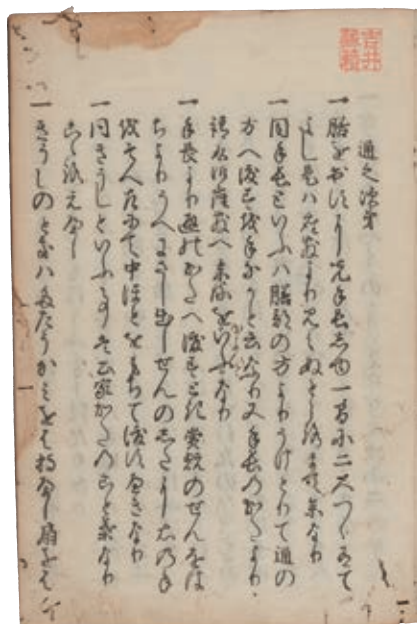
『東京パック』4(21), 明治41 (1908) 年7月
表紙 <https://dl.ndl.go.jp/pid/2779609/1/1>

第60回貴重書等指定委員会報告

新たな貴重書の紹介

国立国会図書館は、蔵書のうち、資料的価値が高いものなどを「貴重書」「準貴重書」に指定しています。令和7年2月19日、和漢書3点を貴重書に指定し、累計で貴重書は1332点、準貴重書は805点となりました。

(貴重書等指定委員会)



「通之次第」巻頭。料理の配膳給仕や、食礼に関する故実が記されている。



「通之次第」表紙。題簽は部分的に失われているものの、原装・元題簽を残していると考えられる。

しよれいしゅう

諸礼集 7巻

<当館請求記号 WA7-306>

[小笠原長時, 小笠原貞慶] [編] [京都] 中嶋久兵衛 寛永8 [1631]

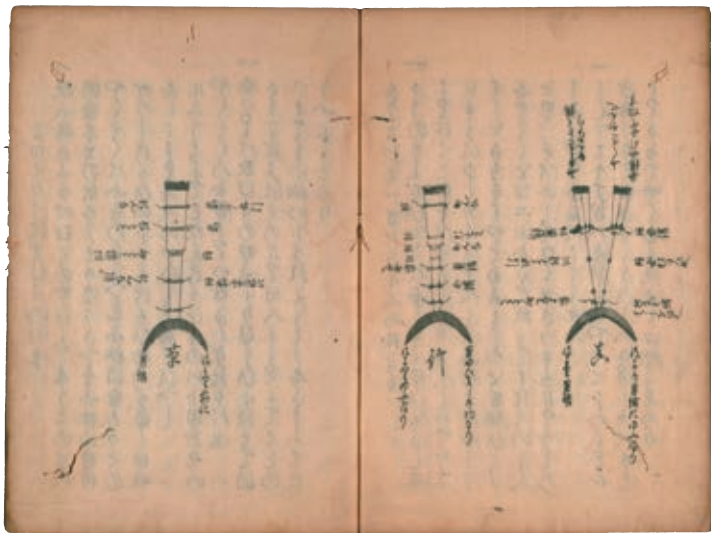
7冊 大きさ28.1×19.6cm

古活字版 書名は題簽による 無辺無界 每半葉12行 每行字数不等約20字内外 字高22.4cm 版心に丁数を記す 袋綴じ 四つ目綴じ 栗皮色表紙 表紙左肩に刷り題簽 奥書「小笠原大膳大夫/長時/同 右近太夫/貞慶/右此一札雖為當家の秘事也/依御執心態記進之候夢々/不可有他見者也」(通之次第)、「右七礼者雖為當家の秘書依御執/心進之候不可有他言者也小笠原」(書札之次第 [下]) 元服之次第、萬請取渡次第、書札之次第 [上]の末尾に補写あり

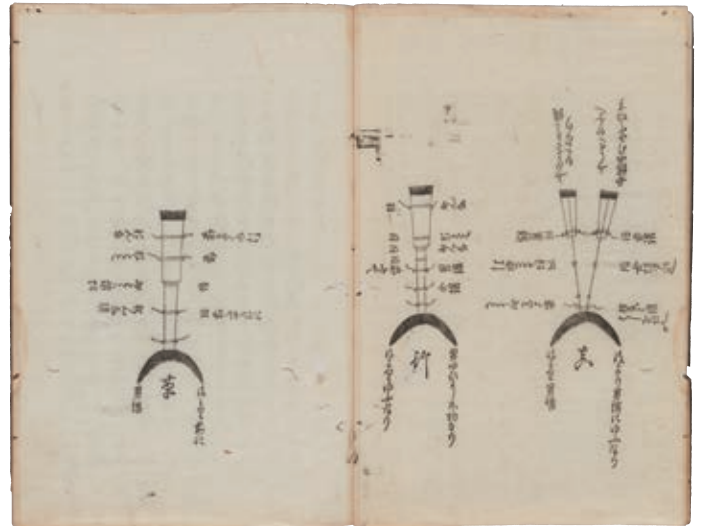


『諸礼集』は小笠原流^①の武家礼法書です。「通之次第」^②、「酌之次第」^③、「元服之次第」^④、「萬受取渡次第」^⑤、「萬簾之次第」^⑥、「書札之次第」(2巻)^⑦の7巻7冊から成っており、献上物の披露の仕方、書状の書き方など、様々な礼法が記されています。江戸初期には古活字版や整版が出版されており、秘伝とされていた小笠原流礼法書の初期の出版例として貴重な資料です。

古活字版『諸礼集』は、整版で図が挿入されている箇所、絵活字のように図(枠)を描いたコマを共有して刷ったと見られる同一の図が繰り返し登場する箇所があり、古活字版における図版の印刷方法という点で興味深い資料と言えます。古活字版

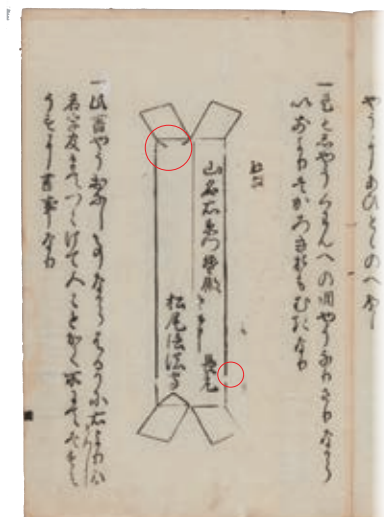


元和寛永中刊12行本の「元服之次第」第3丁裏～4丁表に挿入された整版図
 <当館請求記号 WA7-166> <https://dl.ndl.go.jp/pid/2544524/1/5>



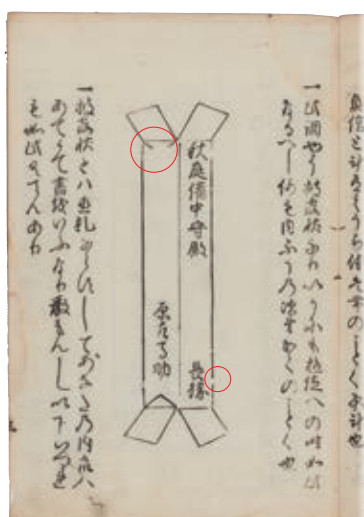
本書「元服之次第」第3丁裏～4丁表に挿入された整版図

本書（右）と元和寛永中刊12行本図（左）を見比べると、図や字形に明確な違いが見られず、版木を共有している可能性がある。

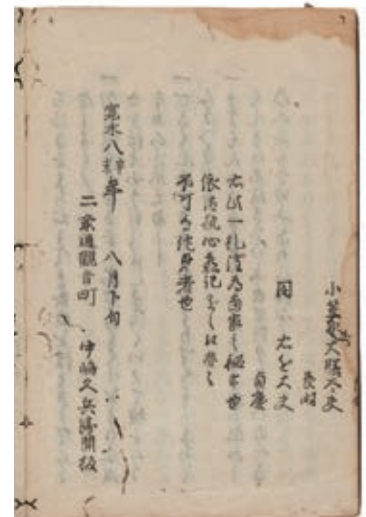


「書札之次第」[下] 第4丁表

欠けが一致しており、図（枠）を描いたコマを共有して刷ったと見られる箇所



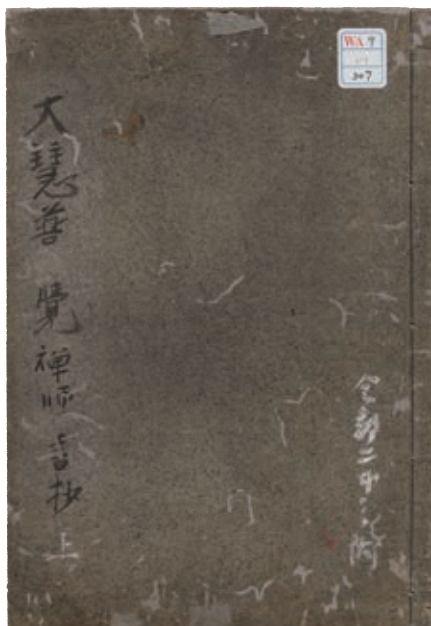
「書札之次第」[下] 第3丁表



「通之次第」巻末（奥書・刊記）

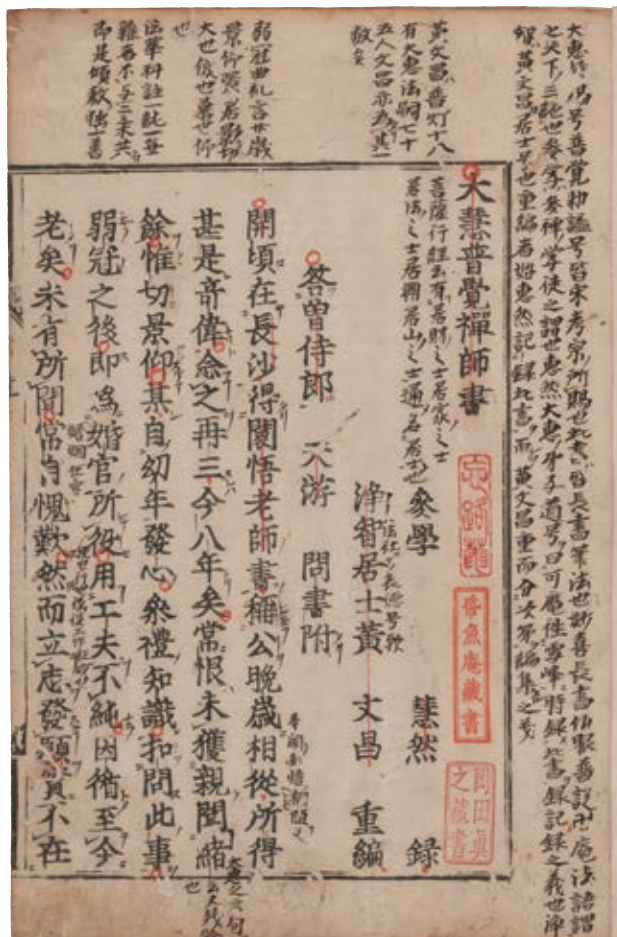
- 1 小笠原氏（清和源氏の後裔である小笠原長清〔1162～1242〕を祖とする氏族）に伝わる武家故実から出た兵学、軍学および礼法の流派の一つ。
- 2 活字（一文字または数文字単位の字型）を組んで印刷されたもののうち、特に安土桃山時代の文禄年間（1592～1596）から江戸時代の慶安年間（1648～1652）にかけて出版されたものをいう。
- 3 版木（文字や絵を彫った板）を用いて印刷されたもの。
- 4 川瀬一馬『古活字版の研究』増補版、日本古書籍商協会、1967
 上巻p.480 <https://dl.ndl.go.jp/pid/2974633/1/255>
 中巻pp.872-873 <https://dl.ndl.go.jp/pid/2972407/1/108>
- 5 当館では本書のほかに②元和寛永中刊12行本<当館請求記号 WA7-166> <https://dl.ndl.go.jp/pid/2605254>及び③寛永中刊13行本<当館請求記号 WA7-151><https://dl.ndl.go.jp/pid/2606871>を所蔵するが、いずれも端本。

の伝本は①慶長元和中刊12行本、②元和寛永中刊12行本、③寛永中刊13行本、④寛永中刊13行本（小型活字）、⑤寛永8（1631）年刊12行本に大別され、いずれも7冊揃いの伝本は稀です。本書はこのうち⑤に当たります。現在のところ、端本を含め⑤の伝本を所蔵する機関は他に確認できません。①～⑤の出版の先後は現在明らかになっていませんが、本書は別種の古活字版『諸礼集』と版木を共有している可能性があり、①～⑤の影響関係を紐解く手がかりになり得ると考えられます。



卷上表紙

書き外題には「大慧普覺禪師書抄」とある。本書は抄物（しょうもの、室町時代から江戸時代初期にかけて、五山の僧侶や儒者等が漢籍・仏典・国書に注釈を付したものの、またその講義を記録したもの）ではないが、全丁に多くの書き入れがあり、僧侶の修学に使用されたことが推測される。



卷上巻頭

だいえふかくぜんじしよ 大慧普覺禪師書

2巻

貴重書

<当館請求記号 WA7-307>

(宋) 釋宗杲 撰 (宋) 釋慧然 録 (宋) 黃文昌 重編 [京都] 中村長兵衛 [寛永年間]

2冊 大きさ29.3×20.1cm

古活字版 書き外題:大慧普覺禪師書抄 刊記「富小路通讃州寺町 中村長兵衛」 四周双边無界 每半葉9行 每行20字 匡郭内21.9×16.1cm 上下花魚尾 中黒口 版心「書 上(下) (丁数)」 五針眼訂法 濃灰色に吹き墨表紙(後補) 表紙に白字の書き入れ(書き外題の下に「上(下)」、右下部に「全部二本之内」) 墨・朱・白字の書き入れあり 別紙に書き入れたものの綴じ込みあり(巻上第47丁と第48丁の間に1丁、巻下第21丁と第22丁の間に1丁) 巻下末に「天寧寺」墨書あり 印記:天寧寺、岡田眞之藏書、帝魚庵藏書、忘路菴、月明荘、馬

本書は、中国の禅僧・大慧宗杲(1089-1163 諡号・普覺禪師)の書簡集で、門下の士大夫等の質問に応じて臨済宗の要旨を説いた書簡26編を収めています。寛永年間に京都の書肆・中村長兵衛により古活字版として刊行されました。

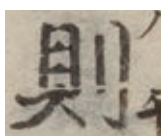
古活字版『大慧普覺禪師書』の伝本は①無刊記(大東急記念文庫、石川武美記念図書館蔵成貴堂文庫所蔵)、②無刊記(東京都立中央図書館所蔵)、③中村長兵衛版(大東急記念文庫所蔵)、④中村長兵衛版(大東急記念文庫、東京大学総合図書館所蔵)の4種類に分類することができ、本書はそのうちの③に当たるものと考えられます。

古活字版4種類のうち④は一部分が整版で構成された乱版と称されるもので、古活字版から整版へ出版の主流が移っていく過渡期を表すものとして出版史上注目されます。なぜこの移行が起きたのか、はつきりしたことは分かりませんが、出版需要が増大したときに、再版のたびに新たに版を組まねばならない古活字版は整版より手間がかかる分、不利であったのだと思われます。

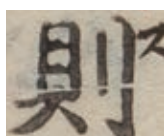
本書には古活字版ならではの特徴として、欠損箇所を同じくする活字

本書に出現する欠損箇所を同じくする活字の使用例

則

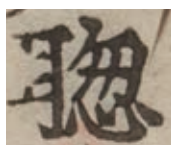


卷上第34丁表2行目

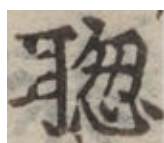


卷下第4丁裏8行目

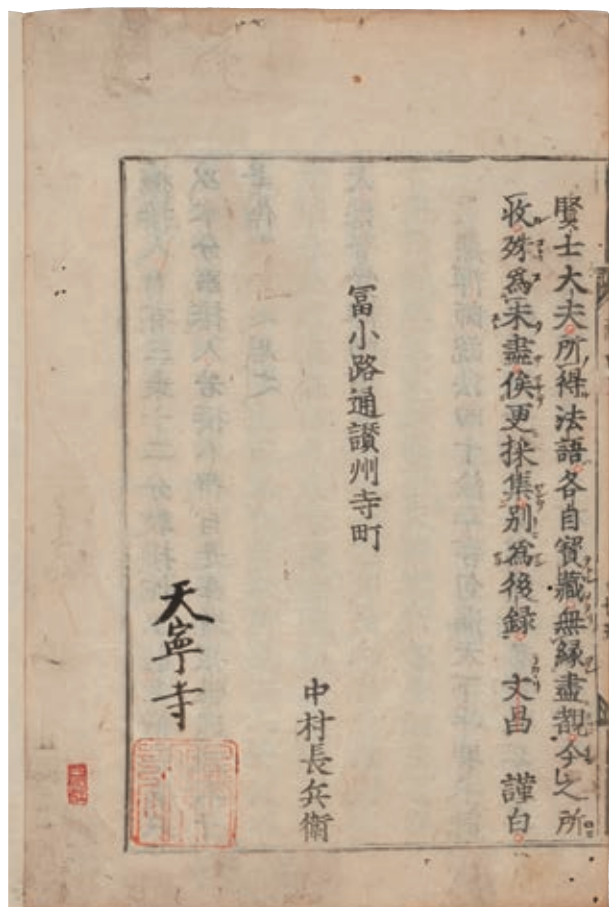
聡



卷上第5丁裏2行目



卷下第20丁表2行目



刊記

刊年は記されていないが、本書と同版の大東急記念文庫蔵本には寛永4（1627）年の書き入れがあり、ここから刊行時期の推定ができる。

- 6 後述の欠損活字の出現位置が異なるため①とは別版と判断できる。
- 7 卷下第38丁以降が新彫の整版になっている。中村長兵衛はこの乱版の古活字版部分もすべて整版に置き換えた（整版部分は共通）全部整版本も出版している（大東急記念文庫蔵）。
- 8 川瀬一馬『古活字版之研究』増補版，日本古書籍商協会，1967
中巻 pp.767-768 <https://dl.ndl.go.jp/pid/2972407/1/55>
- 9 本書にみられる欠損活字（掲出図版参照）のうち、「則」と同じ活字が①の卷下51丁裏9行目、②の卷下第16丁裏7行目、④の卷上第4丁裏2行目等に、また「聡」と同じ活字が①卷下第40丁裏4行目、②卷上第5丁裏1行目等に見られる。

が複数個所で使用されているのが確認できますが、この欠損活字は4種類の古活字版『大慧普覚禪師書』で共通して使用されているのが認められ、少なくとも一部活字を使いまわしながら改版を繰り返したことがうかがわれます。①から④の關係についてさらなる研究が期待されるところです。



第18丁裏

歌人：^{なかつかさ}中務

和歌：秋風の 吹につけても 問ぬかな おぎの葉ならば 音はしてまし



第1丁表

歌人：^{かきのもとしとまろ}柿本人麻呂

和歌：龍田川 紅葉ばなぐる 神なびの 御室の山に 時雨ふるらし

[三十六歌仙]

<当館請求記号 WA8-21>

[江戸初期]

1冊 大きさ34.7×25.8 cm

伝本阿弥光悦書 嵯峨本三十六歌仙第二種本*の後印 四周単辺 無界匡郭内28.6×22.2cm(第1丁裏の凡河内躬恒の図による) 袋綴じ 四つ目綴じ 黒色無地表紙 本文料紙は素紙 裏表紙の裏に「持主/三宅左兵衛」と墨書あり 印記:小天香堂收藏、三井家鑑藏、大正十三年所得
*川瀬一馬『嵯峨本図考』による

貴重書

『三十六歌仙』は、平安時代中期の歌人・藤原公任(966-1041)の『三十六人撰』に選ばれた36人の歌人像にその詠歌の書を添えたものです。歌人の姿を描いた歌仙絵はやまと絵の代表的なモチーフであり、優雅な和歌の散らし書きは古代様の仮名の美しさを追求したものです。

『三十六歌仙』が初めて出版されたのは慶長年間(1596-1615)で、嵯峨本(一種として刊行された)と推定されています。嵯峨本は京都の豪商、角倉素庵が刊行に関与したといわれ、流麗な書体や豪華な装訂により、美しい古典籍の代表格とされます。嵯峨本のほとんどは古活字版ですが、『三十六歌仙』は整版です。印刷された歌仙絵として最も古く、以後の江戸期刊本の歌仙絵の基軸を形成しました。

『三十六歌仙』には異なる版の伝本が多数存在しますが、本書は最初期の版の後刷りで、料紙は素紙です。蔵書印から実業家の三井高堅(1867-1945)の旧蔵書であったことがわかります。同版の伝本を所蔵する機関としては、米国立ソニアン協会国立アジア美術館図書館、東洋文庫、東北大学附属図書館が確認されています。

※ pp.10-11 の和歌の翻字には濁点を付した。



(左) 第8丁表

歌人：坂上是則 さかのうえこれのり

和歌：三芳野の 山のしら雪
つもるらし 故郷寒く 成ま
さる也

(右) 第7丁裏

歌人：藤原興風 おきかぜ

和歌：契けむ 心ぞつらき
七夕の 年に一度 逢はあ
ふかは

版の違いを比べてみよう！

当館ではもう1点『三十六歌仙』を所蔵し、貴重書に指定しています。今回貴重書に指定した本とは別の版であり、見比べると異なる点を確認できます。

	今回貴重書に指定した本 ＜当館請求記号 WA8-21＞	別の版の『三十六歌仙』 ＜当館請求記号 WA7-180＞
柿本 かきのもと 人麻呂 ひとまろ	 烏帽子の小結（後部の紐）は2本の線状です。	 烏帽子の小結が輪状になっています。 https://dl.ndl.go.jp/pid/1288424/1/3
大中臣 おおなかとみ 能宣 よしのぶ	 冠の纓（冠のうしろに長く垂れている装飾具）は無地です。	 冠の纓の文様が描かれています。 https://dl.ndl.go.jp/pid/1288424/1/19

10 川瀬一馬『嵯峨本図考』一誠堂書店、1932 (<https://dl.ndl.go.jp/pid/1688294>) の「嵯峨本三十六歌仙第二種本」、鈴木淳「光悦三十六歌仙考」(国文学研究資料館編『江戸の歌仙絵 絵本にみる王朝美の変容と創意』国文学研究資料館、2009 <当館請求記号 KC16-J1220 >の「初板」に該当する。なお、当館は川瀬同上の「嵯峨本三十六歌仙第一種本」、鈴木同上の「再板」に当たる版の後刷り<当館請求記号 WA7-180> <https://dl.ndl.go.jp/pid/1288424> も所蔵する。

11 渡いたままの白い紙。



科学技術資料紹介

原子力設計図集

AEC Engineering Materials and Drawings

国立国会図書館（NDL）では、戦後の創設以来、科学技術関連資料の構築に注力してきており、科学技術分野

の図書・雑誌、規格資料、テクニカルレポート類、索引・抄録誌といった様々な資料を所蔵し、各種の専門的データベースを提供している。東京本館で所蔵する科学技術関係資料のうち、特色ある資料といえは原子力関係資料が挙げられ、本稿で紹介する「原子力設計図集」（AEC Engineering Materials and Drawings）も、そのうちの一つである。

この資料群は、1960年代に収集されたものであるが、一般によく知られた資料とは言えず、利用も多くなかった。2022年に全ての所蔵データが国立国会図書館サーチで公開され、また、リサーチ・ナビに利用方法を含む関連情報も掲載された^①。筆者は、科学技術・経済課の一員として資料の

リスト化及びデータ化の作業に携わったため、収集当時の状況等も含めて、この資料について紹介したい。

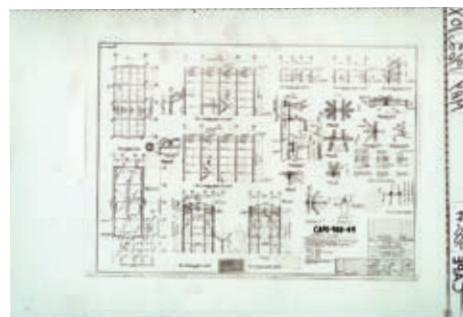
原子力設計図集とは

「原子力設計図集」とは、原子力の利用促進と安全管理・規制を所管していた米国原子力委員会（AEC: Atomic Energy Commission, 1946-1974^②）が作成し、刊行した資料である。AECが所管するオークリッジ（Oak Ridge National Laboratory）、アルゴンヌ（Argonne National Laboratory）等国立研究所のほか、ゼネラル・エレクトリック（General Electric Company）、デュポン（Du Pont de Nemours & Co.）等エネルギー関連会社が運営を請け負う発電所や工場等の、原子炉、施設・設備、各種計測機器、実験道具等に関する設計図面、仕様、写真、関連資料等をマイクロフィッシュに撮影

原子力設計図集収集前史

- 1952 年 国の科学技術振興費の一環として PB リポート* 購入のための予算が講じられる。
*PB リポートは 1945 年、米国トルーマン大統領の発した大統領令に基づき設置された出版局 (Publication Board) が公開した科学技術情報。
- 1953 年 PB リポートと原子力関係資料の購入のため、合わせて 8 千万円の予算を計上。
- 1954 年 原子力関係資料購入のため、1 千万円の予算を計上。赤坂本館 (赤坂離宮) 内「狩の間」に原子力資料閲覧室を開室し、関連資料の提供を開始。
- 1955 年 NDL が AEC の寄託図書館となる。AEC から、図書や雑誌のほか、ミメオグラフ (謄写版) 4,284 点、インデックスカード 18 万枚、マイクロカード 6,500 枚の資料が到着、9 月に提供開始。
- 1959 年 NDL が国際原子力機関 (IAEA) と米国空軍傘下の調査機関ランド・コーポレーションの寄託図書館となる。

「原子力設計図集」のマイクロフィッシュ
CAPE100-1 ~ 10
<当館請求記号 YE5-D1 >



「原子力設計図集」のマイクロフィッシュ CAPE900-49
(ネガフィルムをポジフィルムに反転した状態)
<当館請求記号 YE5-D1 >

して国内外に頒布した資料である。1 枚またはそれ以上のフィッシュ (概ね 10・5 cm × 14・8 cm のシート状のフィルム) がテーマ別のセットになっており、各セットには、資料を特定するため CAPE 番号と呼ばれる番号が付与されている。

1 件の CAPE 番号に属するフィッシュの枚数は、1 枚から 1800 枚以上と様々であり、すべてのフィッシュには枝番号が付与されている。この原子力設計図集の多くは、シート 1 枚に対して様々な機械や設備、器具等が細かく書き込まれた図面や写真が大きく 1 枚撮影されており、中には、1 枚の特大的図面を複数のフィッシュに分割して撮影しているものもある。この「原子力設計図集図集」の目録として、AEC の技術情報サービス (TIS: Technical Information Service) がテクニカル・リポート「Engineering

Material List」(TID-4100) を刊行した (NDL では関西館に所蔵)。

原子力設計図集の収集

「原子力設計図集」は NDL が AEC から寄贈を受けた資料だが、寄贈の橋渡しを行ったのは、在日米国外務省大使館アタッシェのザルトマン博士である。アタッシェとは大使館・公使館で、軍事・科学・経済などの専門分野を担当する館員であり、博士の担当は原子力であった。マイクロフィッシュ 25000 枚からなる原子力設計図集の第一便が NDL に到着したのは 1962 年のことである。⁽³⁾ このとき NDL ではこの膨大な数のマイクロフィッシュについて、TID-4100 の分類に準拠して、分類目録『原子力設計図集目録』を作成して利用に供した。⁽⁴⁾ NDL は AEC のほか、⁽⁵⁾ 国際原子力機関 (

原子力設計図集 (AEC Engineering materials and Drawings)

目次

1. 概要
2. 所蔵資料の内容および検索ツール
3. 利用方法
 - 3-1. 利用準備: CAPE番号、枝番を特定する
 - 3-1-1. タイトル、作成機関から探す
 - 3-1-2. 主簿から探す
 - 3-1-3. 資料中のオリジナルな文書番号で探す
 - 3-2. 利用申込

2025年1月10日 更新
科学技術・経済情報室 作成

ここでは、原子力設計図集の概要と利用方法を説明します。
【 】内は当館請求記号です。

1. 概要

原子力設計図集 (AEC Engineering materials and Drawings) は、原子力研究および利用推進の機運の高まりを受け、原子力の利用促進と安全管理・規制を所管していた米国原子力委員会 (AEC: Atomic Energy Commission, 1946-1974) が、所管研究所、発電所、工場などの、原子炉、施設・設備、各種計測機器、実験道具などに関する、設計図面、仕様、写真、関連資料などを集め、マイクロフィッシュに撮影して国内外に頒布した資料です。

国立国会図書館の所蔵資料^①は、AECから寄贈を受けたものです。

マイクロフィッシュにはCAPE番号 (CAPE+数字) が付与されています。CAPE番号は、AEC内のTIS (Technical Information Service) によって設定された資料特定用のコードです。1件のCAPE番号に含まれるマイクロフィッシュの枚数は、1枚から1,000枚以上までさまざまで、設計図面や仕様といった内容のマイクロフィッシュそれぞれに一連の枝番号が付与されています。

現在、当館では、1960年から1966年までに刊行されたCAPE 1から1201までの1,112件、全39,209枚を所蔵していますが、欠番や欠枝番、重複、改訂、複数枚の組合せなどが多数含まれています。また、オリジナルの図面の劣化や、現像不良などのために、画像が不鮮明なものも多々あります。

<参考文献>

- ①『原子力技術の集大成—AEC寄贈の設計図集Engineering Drawings』^② (『科学技術文献サービス = Science and technology information service』[通号3] 1962.7 pp.4-5 [Z14-376]) (国立国会図書館デジタルコレクション:インターネット公開)
- ②『原子力資料ことはじめ』^③ (『科学技術文献サービス = Science and technology information service』[通号76] : 1966.4 p.25 [Z14-376]) (国立国会図書館デジタルコレクション:図書館・個人複製閲覧)

リサーチ・ナビ「原子力設計図集 (AEC Engineering materials and Drawings)」

https://ndlsearch.ndl.go.jp/rnavi/stm/aec_engineering_materials_and_drawings



原子力設計図集の 利活用に向けて

「原子力設計図集」の従来の冊子目録では資料の特定に困難があった。このたび、NDLが所蔵するフィッシュを改めて確認し、CAPE番号、各番号のタイトル、各番号に含まれる

IAEA)、欧州原子力共同体 (EURATOM)、カナダ原子力公社等からも資料の寄贈を受け、原子力関係資料が充実していった。

「原子力設計図集」の寄贈は、1962年以降も複数回にわたって行われ、フィッシュを収納する封筒に押された受入印の日付から見る限り、1966年4月で収集は終わっているが、この収集の結果として、NDLでは、CAPE 1番から1201番までの1112件^④、総数39209枚を所蔵するに至った。

フィッシュの枚数等を一覧できるリストを作成し、当館ホームページ (リサーチ・ナビ) 上で公開した。また、CAPEの何番が、TID4100の何巻に記載されているかの情報を一覧できるリストも併せて提供している。さらにNDLサーチにもデータを投入したことで、CAPE番号による検索・請求も可能になった。今後、この資料が活用されることを期待したい。

(中島 尚子)

◀ 目次

1. 概要

2. 所蔵資料の内容および検索ツール

3. 利用方法

3-1. 利用準備：CAPE番号、図集を特定する

3-1-1. タイトル、作成機関から探す

3-1-2. 主簿から探す

3-1-3. 資料中のオリジナルな文書番号で探す

3-2. 利用申込

2025年1月10日 更新
科学技術・経済情報室 作成

2. 所蔵資料の内容および検索ツール

- TID-4100『Engineering Materials List』シリーズ
原子力設計図集の内容詳細は、AECの発行するテクニカルレポートTID-4100『Engineering Materials List』で確認することができます。Computer, Critical Assemblies, Engineering Equipment and Machinery, Hot Laboratory Equipment, Instrumentsなど十数種類の大分類と、その下位の小分類で区分けされており、主簿索引からも資料が探せるようになっています。なお、分類の表記などには多少誤れがあります。
- [HathiTrust Digital Library](#)
HathiTrust Digital Libraryは、アメリカを中心とした大学や研究機関などの所蔵資料をデジタル化し、アーカイブしている電子図書館です。『Engineering Materials List』もデジタル化されており、主簿から検索できるSubject Indexや、資料中のオリジナルな文書番号とCAPE番号を対照できるDrawing number indexを閲覧できます。
- 『原子力設計図集目録: List of engineering materials』 (国立国会図書館閲覧部科学技術参考課 1962.10 【Y111-KA30-3】)
国立国会図書館がTID-4100の分類に準拠して作成した分類目録です。

上に紹介した資料を参考に、各CAPE番号、タイトル、作成機関、掲載TID-4100 番号を一覧にしたリストは、以下で確認できます。

国立国会図書館所蔵『原子力設計図集』(Engineering Materials and Drawings, CAPE) リスト (CAPE_holding_list (PDF:347KB)) (以下「当館所蔵リスト」)

また、各TID-4100の番号の当館所蔵書誌およびHathiTrustへのリンクを一覧にしたリストは、以下で確認できます。

CAPE 1	MTR Hot Cell Windows	1-26	Phillips Petroleum Co., Atomic Energy Div.	26枚		TID-4100 (1st Rev.)
CAPE 2	Portable Fast-and Slow- Neutron Survey Meter	1-23	California Univ., Berkeley, Radiation Lab.	23枚		TID-4100 (1st Rev.)
CAPE 3	Water Boiler (SUPO Model)	1-150	Los Alamos Scientific Lab.	150枚		TID-4100 (1st Rev.)
CAPE 4	Master UCRL Scale	1-45	California Univ., Berkeley, Radiation Lab.	45枚		TID-4100 (1st Rev.)
CAPE 5	Lead Shielded Manipulator Box	1-24	California Univ., Berkeley, Radiation Lab.	33枚		TID-4100 (1st Rev.)
CAPE 6	2KV 10MA Regulated DC Power Supply	1-26	California Univ., Berkeley, Radiation Lab.	26枚		TID-4100 (1st Rev.)
CAPE 7	Geneva Conference Reactor	1-64	Oak Ridge National Lab.	64枚		TID-4100 (1st Rev.)
CAPE 8	Geneva Conference Reactor Controls	1-41	Oak Ridge National Lab.	45枚	2枚重複: 3, 13, 36, 38	TID-4100 (1st Rev.)
CAPE 9	High-Speed Rotating-Mirror Framing Camera	1-53	Los Alamos Scientific Lab.	56枚	4枚組: 1	TID-4100 (1st Rev.)
CAPE 10	10 Channel Pulse Height Analyzer	1-15	Los Alamos Scientific Lab.	24枚	10枚組: 1	TID-4100 (1st Rev.)
CAPE 11	Co60 High Gamma Source Unit	1-76	California Univ., Berkeley, Radiation Lab.	76枚		TID-4100 (1st Rev.)
CAPE 12	Radioactive Storage Container	1-2	California Univ., Berkeley, Radiation Lab.	2枚		TID-4100 (1st Rev.)
CAPE 13	Chain Drive Manipulator	1-36	California Univ., Berkeley, Radiation Lab.	47枚	2枚重複: 5, 8, 11, 14, 15, 17, 18, 19, 23, 24, 25	TID-4100 (1st Rev.)
CAPE 14	Beta-Counter	1	Los Alamos Scientific Lab.	1枚		TID-4100 (1st Rev.)
CAPE 15	100 Channel Pulse Height Analyzer	1-8	Los Alamos Scientific Lab.	8枚		TID-4100 (1st Rev.)
CAPE 16	Scintillation Counter Shield	1-16	California Univ., Berkeley, Radiation Lab.	16枚		TID-4100 (1st Rev.)
CAPE 17	Argonne Research Reactor, CP-5	1-130	Argonne National Lab.	129枚	欠: 97	TID-4100 (1st Rev.)
CAPE 18	Oak Ridge Research Reactor Building	1-326	Oak Ridge National Lab.	353枚	30枚組: 233, 欠: 87, 95	TID-4100 (1st Rev.)
CAPE 19	Oak Ridge Research Reactor Controls	1-120	Oak Ridge National Lab.	118枚	欠: 44, 45	TID-4100 (1st Rev.)
CAPE 20	Oak Ridge Research Reactor Core	1-307	Oak Ridge National Lab.	284枚	2枚改訂: 78, 欠: 33-51, 100-104, 106, 107, 109, 110, 112-114, 119-138, 170	TID-4100 (1st Rev.)
CAPE 21	Scintillation hand and foot counter	1-38	California Univ., Berkeley, Radiation Lab.	39枚	2枚組: 7, 33	TID-4100 (1st Rev.)
CAPE 22	3 MEV Electron Linear Accelerator	1-60	California Univ., Berkeley, Radiation Lab.	67枚	2枚組: 1-3, 6, 9, 23, 2枚改訂あり50	TID-4100 (1st Rev.)
CAPE 23	Tower Shielding Facility	1-236	Oak Ridge National Lab.	237枚	2枚重複: 203	TID-4100 (1st Rev. Suppl.1)
CAPE 24	Tower Shielding Facility, Instrumentation	1-179	Oak Ridge National Lab.	183枚	2枚改訂: 133-135, 158	TID-4100 (1st Rev. Suppl.3)
CAPE 25	Tower Shielding Facility Reactor Controls	1-66	Oak Ridge National Lab.	66枚		TID-4100 (1st Rev. Suppl.1)
CAPE 26	Bulk Shielding Reactor	1-241	Oak Ridge National Lab.	241枚		TID-4100 (1st Rev. Suppl.1)
CAPE 27	Oak Ridge Reactor Controls	1-166	Oak Ridge National Lab.	173枚	10枚組: 57, 欠: 68-74	TID-4100 (1st Rev. Suppl.1)
CAPE 28	Hot Analytical Facility	1-115	Oak Ridge National Lab.	124枚	10枚組: 1	TID-4100 (1st Rev. Suppl.1)
CAPE 29	Decade Scale	1-47	Oak Ridge National Lab.	47枚		TID-4100 (1st Rev. Suppl.2)
CAPE 30	Extraman Manipulator	1-11	Oak Ridge National Lab.	11枚		TID-4100 (1st Rev. Suppl. 11)
CAPE 31	Low Intensity Test Reactor	1-514	Oak Ridge National Lab.	524枚	2枚組: 123, 133, 137, 150, 154, 182, 204, 207, 208, 210, 249, 512, 3枚組: 224, 4枚組: 513; 欠: 89, 9, 131-155	TID-4100 (1st Rev. Suppl.1)

国立国会図書館所蔵『原子力設計図集』(Engineering Materials and Drawings, CAPE) リスト (CAPE_holding_list)
リサーチ・ナビ「原子力設計図集 (AEC Engineering materials and Drawings)」のページ (https://ndlsearch.ndl.go.jp/rnavi/stm/aec_engineering_materials_and_drawings) から見る事ができる。

- 1 リサーチ・ナビ「原子力設計図集 (AEC Engineering materials and Drawings)」
https://ndlsearch.ndl.go.jp/rnavi/stm/aec_engineering_materials_and_drawings
- 2 AECは1946年に、原子力法 (Atomic Energy Act) に基づいて設置された機関。1974年に廃止され、1975年規制部門は、アメリカ原子力規制委員会 (Nuclear Regulatory Commission: NRC) に移行し、推進部門はエネルギー研究開発庁 (Energy Research and Development Administration: ERDA) に吸収された。ERDAは1977年にアメリカエネルギー省 (United States Department of Energy: DOE) に吸収された。
- 3 『原子力技術の集大成 原子力設計図集』『科学技術文献サービス』3, 1962.7, pp.4-5
<https://dl.ndl.go.jp/pid/2290133/1/4>
『国立国会図書館年報 昭和37年度』国立国会図書館, 1964, p.38
<https://dl.ndl.go.jp/pid/3048728/1/31>
- 4 『原子力設計図集目録 List of engineering materials』国立国会図書館閲覧部科学技術参考課, 1962
<当館請求記号 Y111- KA30-3 >
- 5 『国立国会図書館年報 昭和37年度』国立国会図書館, 1964, p.38
<https://dl.ndl.go.jp/pid/3048728/1/31>
- 6 欠番あり。

寄贈の橋渡しを行ったアイラ・F・ザルトマン博士

原子力設計図集の寄贈を仲介した、ザルトマン博士（Ira F. Zartman）は、ジョンズ・ホプキンス大学の応用物理研究所の教授兼副所長として、太平洋戦争中は、近接信管（ミサイルが目標物に接近したとき、自動で起爆させることができる装置）の研究プロジェクトを率いた。

その後、AEC に勤務し、1968 年に原子炉物理部門の長として退官した。1961 年から 1963 年にかけては、在日米国大使館のアタッシュとして原子力に関わる事項を担当し、NDL への原子力設計図集の寄贈の仲介も彼の在任中の任務であった。1963 年 7 月には、博士は、日米協会が開催した講演会において、原子炉の安全性について解説している（『原子炉の安全性 在日米国大使館原子力委員会極東代表 アイラ・ザートマン博士講演要旨 一九六三年七月十一日外国人特派員記者クラブにて』日米協会、1963）。



設計図集を前にしたザルトマン博士夫妻（中央）

『科学技術文献サービス』3, 1962.7 <https://dl.ndl.go.jp/pid/2290133/1/4>

このほか、博士は、1963 年 3 月に開催されたアジア太平洋原子力会議に、オブザーバーとして参加しており（『原子力産業新聞』245 号、昭和 38 年 3 月 15 日）、日本における 3 年の任期中に、積極的に原子力知識の普及活動を行っていたことがわかる。

東京本館で所蔵する科学技術資料の一例

原子炉設置（変更）許可申請書

核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律（昭和三十二年法律第百六十六号）に基づき、研究機関や事業者などが原子炉や原子力施設を設置（変更）する際に行政機関による安全性の審査のために提出する書類等。

※多くの資料は国立国会図書館デジタルコレクション（<https://dl.ndl.go.jp/>）でご覧になれます。

当館ウェブサイト リサーチ・ナビ「原子炉設置（変更）許可申請書」の解説ページ

https://ndlsearch.ndl.go.jp/rnavi/stm/post_400049



量子物理学史アーカイブズ資料

(AHQP: Archives for the History of Quantum Physics)

アメリカ物理学協会（American Institute of Physics）とアメリカ哲学会（American Philosophical Society）が 1961 年から 1964 年までに合同で作成したもので、量子物理学の創成と発展に関与した約 280 名の関係者の未公開の手稿（研究ノートや講義ノート、回想、書簡など）およびインタビューを合計 300 リールのマイクロフィルムに収録した資料。

※利用の際には所定の申請手続きが必要です。

当館ウェブサイト リサーチ・ナビ「量子物理学史アーカイブズ資料」の解説ページ

https://ndlsearch.ndl.go.jp/rnavi/stm/post_400037



私が新聞係に配属となつてできるようになったことの一つが、蝶々結びをきつめに結ぶことです。というのも、新聞資料室には新しい新聞を紐で綴じるための特注バインダーが約90タイトル分あり、毎朝蝶々結びをしているからです。

朝9時のチャイムが鳴ると、新聞係職員はこぞつて事務室から新聞資料室に向かいます。バインダーに新しい日付の新聞を綴じるなど、開館準備をするためです。すでにバインダーに綴じてある新聞と新たに綴じる新聞とで、日付が連続しているか、週刊などの非日刊なら号数が連続しているかを確認しながら作業していきます。

新聞はバインダーに綴じないと散逸する危険性が高く、バインダーで綴じても紐が緩すぎると新聞紙がバインダーからはみ出てよれたり破れたりしやすくなります。一方で、紐を固く締めすぎると内側の部分が見づらくなってしまうことも。だからこそ、あえて緩める場合も想定した蝶々結びで、紐をきつちり結ぶことが大切です。ちなみに紐は先端がほつれず、新聞の重みに耐えられて、バインダーに対してちょうどいい長さのものを選んでいきます。

新聞係に配属されてすぐ、蝶々結びをきつくす

るコツについて教えてもらいました。それは、最初に作った結び目を片側に寄せ（図2参照）、その位置から動かさずに蝶々結びをすることです。手先があまり器用ではない私にはなかなか難しかったのですが、毎日やる作業なので、現在ではある程度納得できる完成度になりました。力を入れすぎているのか、たまに小指の第一関節の外側に軽い擦り傷ができてしまうこともあります。

ゴールデンウィークや年末年始などでお休みが続くと、その分綴じる新聞が溜まります。今年最初の出勤日には、新聞係総出で合計2時間ほど綴込み作業をしていました。

新聞資料室で直接手に取れるバインダーには、全国紙と主要なスポーツ紙、地方紙、業界紙、政党紙、国内発行の英字紙が綴じられています。休廃刊などの理由で、開架タイトルはたまに変わります。2025年4月から新たに開架されたタイトルもありますので、機会があれば確認してみてください。開架タイトル一覧はリサーチ・ナビの「新聞資料室開架資料一覧（最近の新聞）」（https://ndsearch.ndl.go.jp/navi/newspapers/post_700020）で確認できます。

（図書館資料整備課 新聞係 だいふく）

匠の蝶々結びを目指して



図1 新聞資料室で開架しているバインダーの一部。

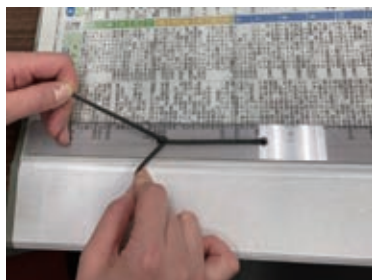


図2 最初の結び目を片側に寄せた図。
左右の紐の長さを調整することもきれいな蝶々結びには大切です。

万博の歴史をふりかえる

—電子展示会「博覧会 近代技術の展示場」—



<https://www.ndl.go.jp/exposition/index.html>



第1回ロンドン万博（1851年）水晶宮内部

Tallis, J. et al.: *Tallis's history and description of the Crystal Palace*. London: J. Tallis, [1851?] 3 v.
<D7-A28>

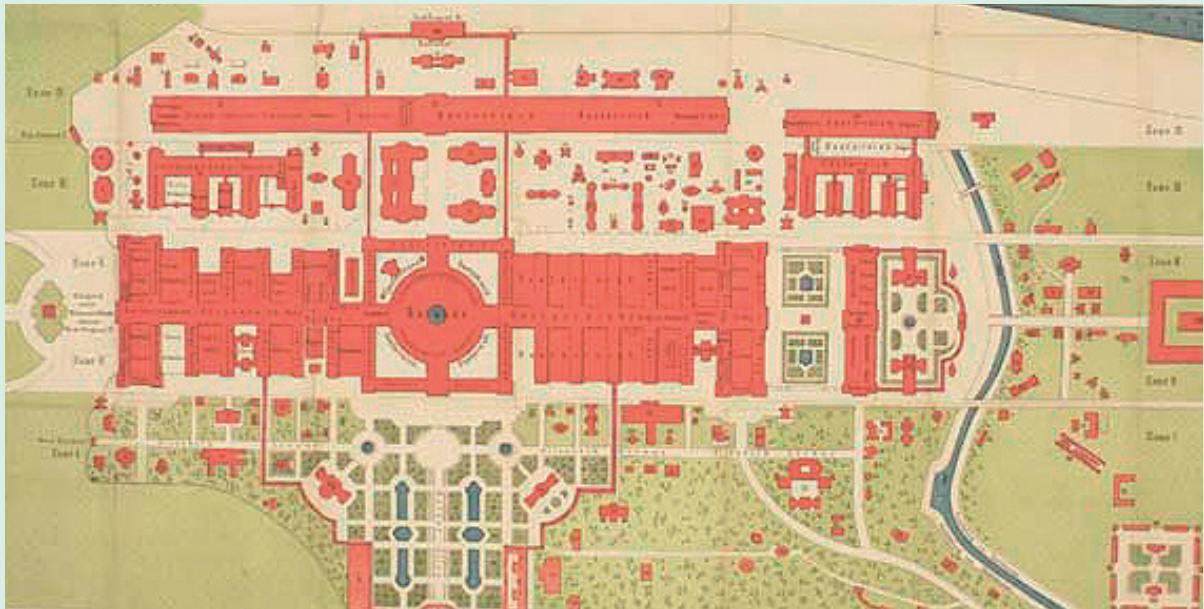
今年4月に大阪・関西万博が開幕して以降、万博のニュースを見聞きする機会が増えています。世界初の万博は、1851年にロンドンで開かれ、産業革命後の英国の工業力を誇示するものとなりました。回数を重ねるうちに、各国の文物を見せるパビリオンや多彩な呼び物も増え、万博は華やかなものとなっていきます。

国立国会図書館の電子展示会の一つである「博覧会 近代技術の展示場」（2010年公開）では、1900年までに開催された万博のうち、11回分の万博の資料やエピソードを多数紹介しています。

この機会に万博の歴史を学んでみませんか？

※この記事に掲載した図版はすべて電子展示会「博覧会 近代技術の展示場」（<https://www.ndl.go.jp/exposition/index.html>）でご覧になれます。

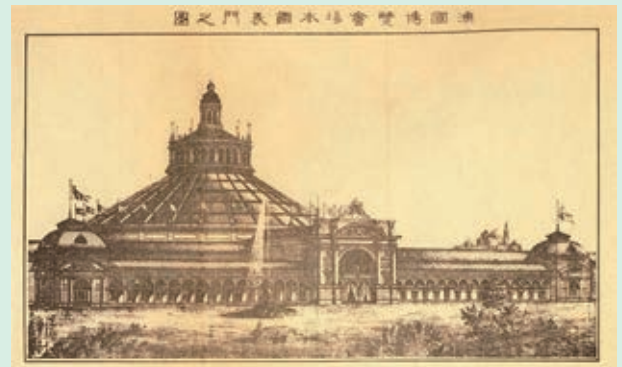
（文責・本誌編集担当）



ウィーン万博（1873年）会場図面 Gerold's ground plan of the Vienna universal exhibition. Vienna: Charles Gerold, 1873. <70-188>



フィラデルフィア万博（1876年）日本館（即売会場）
Norton, F. H. (ed.): *Frank Leslie's historical register of the United States Centennial Exposition, 1876*. New York: Frank Leslie's Pub. House, 1877. <YP51-A230>

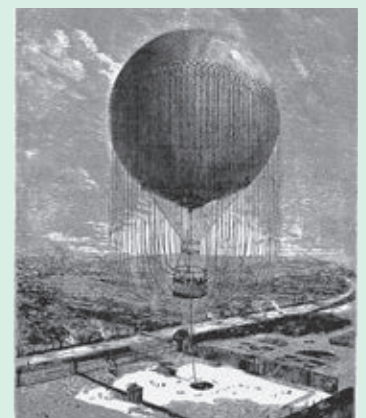


ウィーン万博（1873年）博覧会場本館表門の図
田中芳男・平山成信 編『澳国博覧会参同記要』森山春雅, 1897
<https://dl.ndl.go.jp/pid/801730/1/256>

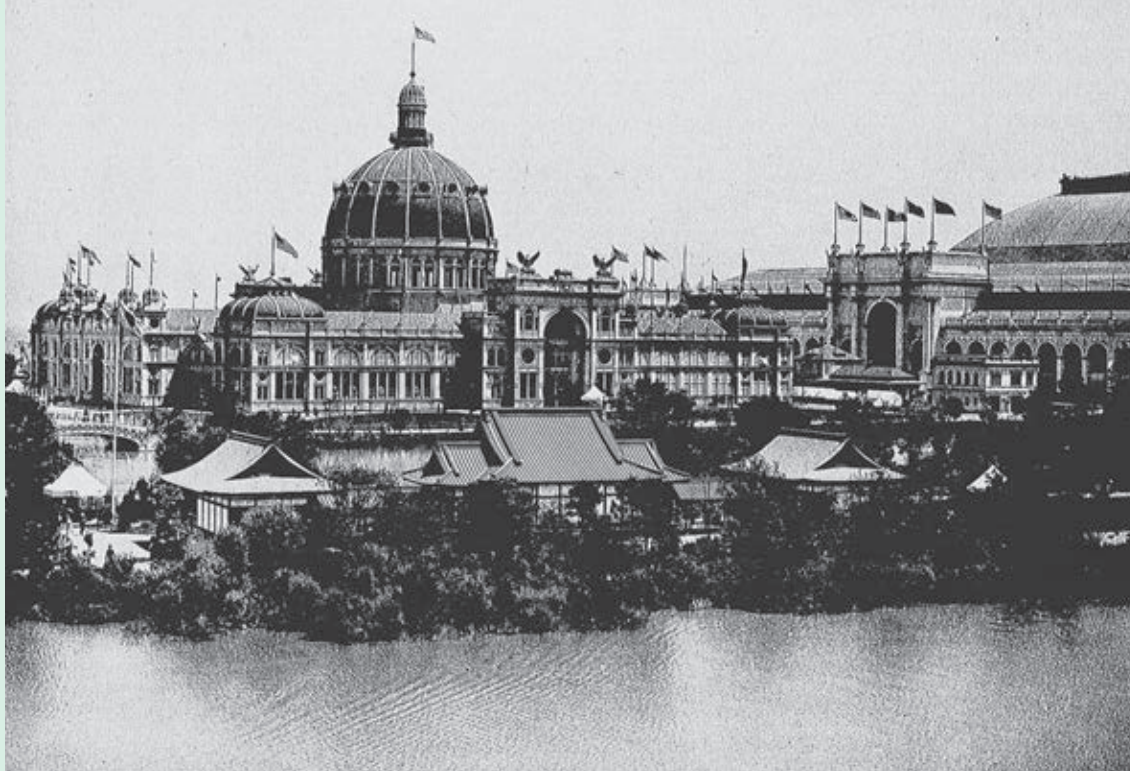


<https://www.ndl.go.jp/exposition/index.html>

電子展示会「博覧会 近代技術の展示場」は国立国会図書館の電子展示会です。国立国会図書館ウェブサイト上でどなたでもご覧になれます。



第3回パリ万博（1878年）
熱気球のアトラクション
L'Exposition universelle de 1878: illustrée: quatre-vingt-sept belles gravures sur bois: texte descriptif par S. de Vandières. Paris: C. Lévy, 1879. <YP51-A227>



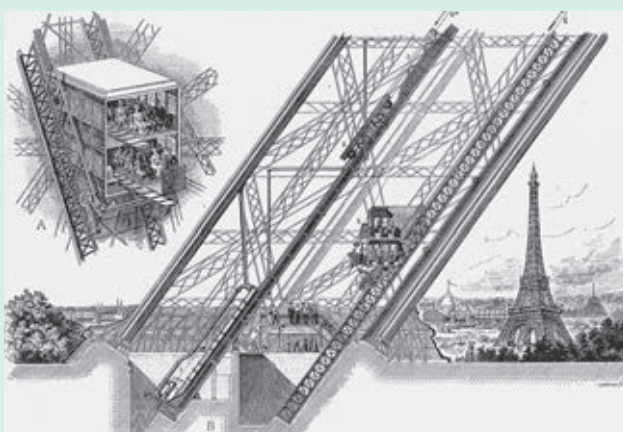
シカゴ万博（1893年）手前が日本館として建設された鳳凰殿 奥がアメリカ政府館

Arnold, C. D., Higinbotham, H. D.: *Official views of the World's Columbian Exposition*. [Chicago]: Press Chicago Photo-Gravure Co., c1893. <D7-A63>



第4回パリ万博（1889年）会場鳥瞰図（斜め遠景より）

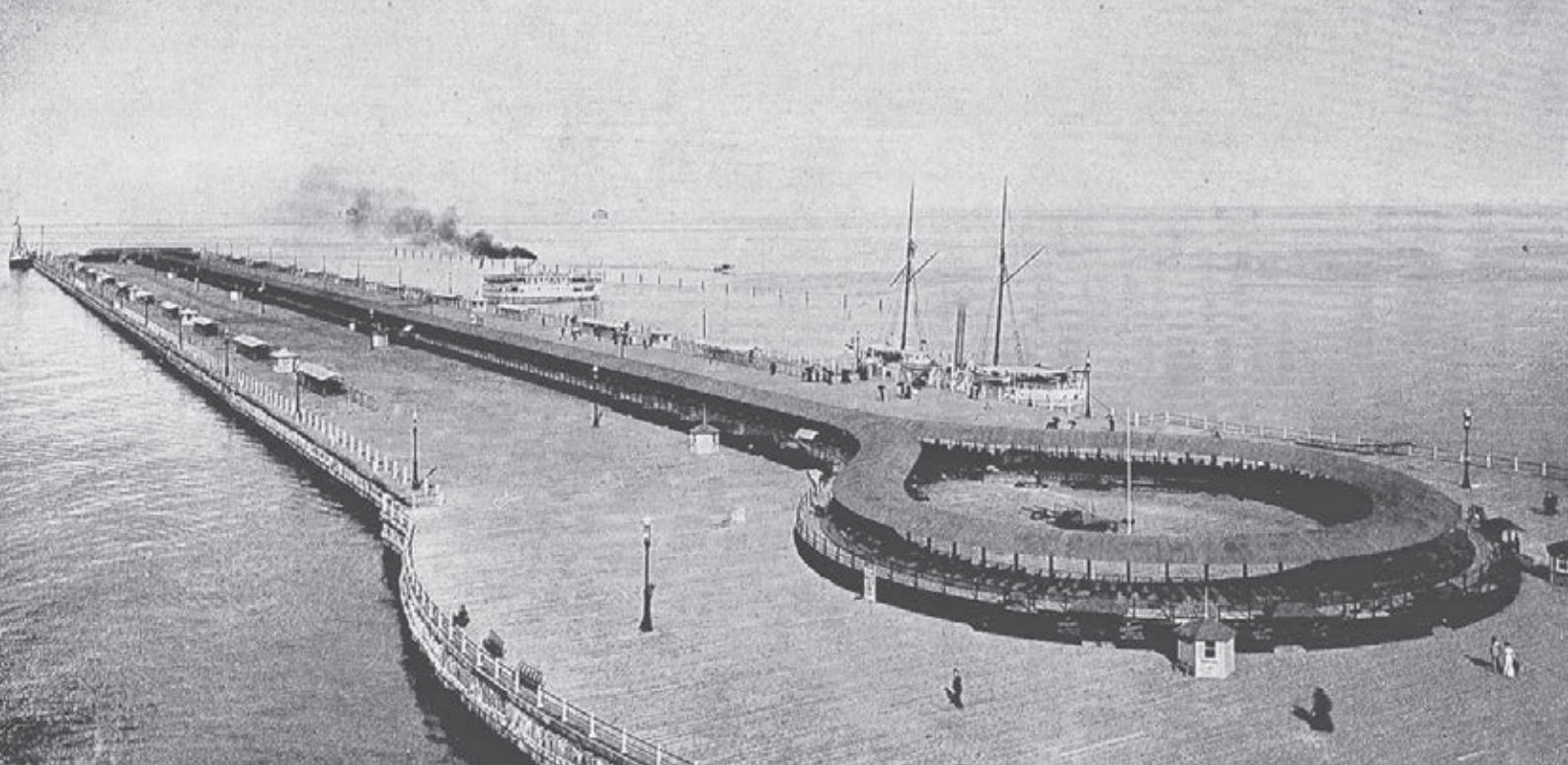
L'Exposition de Paris, 1889. Paris: En vente a la Librairie illustrée, 1889. v.1&2. <YP51-A224>



第4回パリ万博（1889年）エッフェル塔のエレベータ

L'Exposition de Paris, 1889. Paris: En vente a la Librairie illustrée, 1889. v.1&2. <YP51-A224>

第4回パリ万博開催に際し、最大の呼び物として建設されたのがエッフェル塔です。
数多くの設計案から選ばれ、エッフェル社により建設されました。



シカゴ万博（1893年）動く歩道

Bancroft, H. H.: *The book of the fair : an historical and descriptive presentation of the world's science, art, and industry, as viewed through the Columbian exposition at Chicago in 1893*. Chicago: The Bancroft Co., 1893. 25 v. in 5. <YP51-A642>



第5回パリ万博（1900年）電気館（奥）と水宮噴水（手前）

L'Architecture à l'Exposition universelle de 1900. Paris: Librairies-imprimeries réunies, [1900?]. <YP51-A228>



第5回パリ万博（1900年）記念門（正門）

Cafés du Guatemala : Exposition universelle de 1900. Paris : Lacoudre, [1900?]. <YQ51-A75>



第5回パリ万博（1900年）会場内電車

Exposition universelle, 1900. Paris: Ludovic Baschet, [1900?]. <YQ51-A77>

電子展示会「**博覧会 近代技術の展示場**」では、1900年までに開催された万博に加え、内国勸業博覧会についても特徴や会場の様子を紹介しています。このほかにも、万博に出品された各種製品をジャンルに分けて解説し、内国勸業博覧会に出品されたさまざまな機械類も紹介しています。

内国勸業博覧会とは、富国強兵・殖産興業の一環として、西洋技術の紹介、国内産業の競争・発展を企図した国内の博覧会です。明治政府主導の博覧会でしたが、回を重ねるごとに民間からの出品も増加しました。



第4回内国勸業博覧会（1895年）水族室・水産館内の様子
『風俗画報』臨時増刊94号，1895.6＜雑23-8＞

電子展示会「**博覧会 近代技術の展示場**」の構成
<https://www.ndl.go.jp/exposition/index.html>
はじめに

- 第1部 1900年までに開催された博覧会
 - 第2部 出展品からみる産業技術の発達
 - 第3部 出展品からみる明治日本の産業
- 掲載資料一覧・参考文献・リンク集



第2回内国勸業博覧会（1881年）機械館
『第二回内国勸業博覧会』大橋堂，1881＜特44-248＞



第5回内国勸業博覧会（1903年）不思議館での電気光学を利用した踊り
『風俗画報』臨時増刊275号，1903.9＜雑23-8＞



国立国会図書館では、「**博覧会 近代技術の展示場**」以外にも多くの電子展示会を公開しています。各コンテンツでは、国立国会図書館所蔵の様々な資料について、わかりやすい解説を加え紹介しています。

本屋に ない 本



『竹久夢二の美人画とモダンデザイン
—美しいもの・可愛いもの—』

群馬県立館林美術館編・刊 2021.1

79p ; 26 cm

<請求記号 KC482-M296>

本書は、2021年に群馬県立館林

美術館で開催された「竹久夢二の美人画とモダンデザイン—美しいもの・可愛いもの—」展の図録である。竹久夢二といえば「大正ロマン」の体現者として今日まで広く愛される画家であるが、彼はデザイナーとしての顔も持ち合わせていた。本書は、そのタイトルが示すとおり、美人画と商業デザインという切り口から、夢二が持つ多彩な魅力を浮き彫りにしている。肉筆の美人画から、書籍の装幀や千代紙、封筒のデザインまで、多様な作品が掲載されたページは目にも鮮やかだ。

第1・2章では、雑誌の挿画や画集に収録された作品など、書籍に掲載された作品が主に紹介される。夢二の名

をまず世に知らしめたのは、こうした作品群であった。なかでも、大きく印象的な瞳、S字を描くしなやかな肢体といった独特のスタイルを持つ美人画は「夢二式美人」と称されるようになり、夢二はたちまち評判の画家となった。第3章では肉筆の美人画も紹介され、夢二が画家として人気を博している様子を追うことができる。

人気画家となった夢二は、自らがデザインした千代紙などを販売する「港屋絵草紙店」を東京日本橋に開店した。第4章では、港屋で実際に販売されていた商品の数々が紹介される。港屋の売り出しチラシには、本書の副題にもなった「美しいもの」「可愛いものの」の文が見える。シンプルながら夢二

の美意識がよく表れたコピーだ。港屋の商品を通して、夢二はこうした美意識を人々の生活に浸透させていった。

夢二は装幀も多く手がけた。第7章では雑誌、第8章では楽譜の装幀が紹介されている。得意の美人画からオペラの場面を描いたものまで、様々な表現で曲のイメージを絵画化した楽譜の表紙絵は、見ているだけで音楽が聞こえてくるようだ。絵画のみならず、詩歌や音楽などに広く関心を寄せていた夢二だからこそなせる業だろう。芸術と生活を結びつけることに心血を注いできた夢二の想いは「榛名山美術研究所」構想に辿りつく。これは、職人や芸術家が日用品を自ら製作し、売買や物々交換を行いながら生活する

芸術家村のような場を群馬県・伊香保に設けるといえるものである。西欧への外遊を優先したためにこの構想が実現することはなかったが、第6章で紹介される群馬を描いた作品群や、それに続くコラムに掲載された書簡類からは、設立予定地であった伊香保に対する夢二の特別な想いをうかがうことができる。

表紙にあしらわれた美人画や、椿や銀杏といった千代紙のデザインをそのまま活かしたページなど、本書の装幀には随所に手に取りたくなる工夫が凝らされている。本書自体も、夢二が志向した「美しいもの・可愛いもの」をめざして作られていることが伝わる、そんな一冊である。
(毛利友暉)

国立国会図書館は、法律によって定められた納本制度により、日本国内の出版物を広く収集しています。
このコーナーでは、主として取次店を通さない国内出版物を取り上げて、ご紹介します。

国際子ども図書館展示会

「こどもたちに読んでほしい本—令和5年度
児童福祉文化財推薦作品—」

国際子ども図書館では、展示会「こどもたちに読んでほしい本—令和5年度 児童福祉文化財推薦作品—」をこども家庭庁との共催で開催します。

児童福祉文化財は、児童の福祉の向上、子どもたちの健やかな成長に役立てることを目的に、「出版物」、「舞台芸術」、「映像・メディア」等の部門ごとに、こども家庭庁こども家庭審議会が推薦を行っているものです。

この展示会では、令和5年4月から令和6年3月までの期間に推薦された児童福祉文化財のうち、絵本や児童書40作品を直接手にとってご覧いただくことができます。

入場は無料です。ご来場をお待ちしております。

○開催期間 7月15日（火）～8月31日（日）

※月曜日、毎月第3水曜日（資料整理休

館日）は休館

○開催時間 9時30分～17時

○会場 国際子ども図書館レンガ棟3階本のミュージアム

○問合せ先 国際子ども図書館資料情報課 展示係

電話 03（3827）2053（代表）



展示会「こどもたちに読んでほしい本—令和5年度 児童福祉文化財推薦作品—」ポスター

令和7年度資料保存研修

国内の各種図書館員等を対象に、資料防災に関する基本的な知識を習得するための研修を実施します。

※今年度は、これまで実施していた「簡易補修」（実習を含む）をテーマとする研修ではありません。

○会場 国立国会図書館東京本館 新館3階大会議室

○日時 9月26日（金）13時30分～17時

○対象 国内の公共図書館、大学図書館、専門図書館等に勤務する方

○内容 講義…図書館資料の防災対策

見学…水損資料救出のための準備と対応

質疑応答

○定員 50名

申込みが定員を超える場合は抽選により受講者を決定します。

○申込期間 6月13日（金）10時～7月25日（金）17時

○申込方法 当館ホームページをご覧ください、参加

申込みページからお申し込みください。

ホーム▽資料の保存▽保存協力▽おもな研修会や講演会のテーマ・記録等▽令和7年度資料保存研修

https://www.ndl.go.jp/preservation/cooperation/training_r7.html

※6/13（金）10時に公開予定です。



○その他 今年度は、「修了証書」の発行は行いません。館内を歩いて見学しますので、動きやすい服装でご参加ください。

○問合せ先 収集書誌部資料保存課

電話 03（3506）5219（直通）

※対応時間9時～17時45分（土日祝を除く）

電子メール honzonka@ndl.go.jp

NDL Topics

複写料金改定についてのご案内

令和7年7月1日（火）に複写料金を改定しました。
近年の人件費・物価の上昇のため、一部メニューの料金引上げを行いました。なお、カラー料金の一部は技術動向を踏まえ、引き下げました。

複写料金については、当館ホームページでもご覧いただけます。
何卒、ご理解賜りますようお願い申し上げます。

複写メニュー	色	サイズ / 分量	改定後（現行）（円）	改定前（円）
電子式複写（通常のコピー） ・資料を紙にコピーします。 ・「セルフ」は関西館のみのメニューです。	白黒	A4/B4	28.60（26+ 税）	27.50（25+ 税）
		A3	47.30（43+ 税）	47.30（43+ 税）
		A2	154.00（140+ 税）	133.10（121+ 税）
		セルフ A4/B4/A3	17.60（16+ 税）	17.60（16+ 税）
	カラー	A4/B4	99.00（90+ 税）	104.50（95+ 税）
		A3	127.60（116+ 税）	127.60（116+ 税）
電子情報等のプリントアウト ・「遠隔」は遠隔複写（郵送受取）サービスで デジタルデータの印刷を申し込んだ場合の 料金です。	白黒	A4/B4/A3	17.60（16+ 税）	17.60（16+ 税）
		遠隔 A4/B4	36.30（33+ 税）	27.50（25+ 税）
		遠隔 A3	49.50（45+ 税）	47.30（43+ 税）
	カラー	A4/B4/A3	30.80（28+ 税）	39.60（36+ 税）
		遠隔 A4/B4	55.00（50+ 税）	63.80（58+ 税）
		遠隔 A3	88.00（80+ 税）	110.00（100+ 税）
マイクロからの電子式引伸 ・マイクロ資料を紙に引き伸ばします。	白黒	A4/B4	121.00（110+ 税）	77.00（70+ 税）
		A3	154.00（140+ 税）	110.00（100+ 税）
裏写りの防止に係る費用（入紙）		1 枚につき	15.40（14+ 税）	14.30（13+ 税）
発送事務手数料		国内 1 発送 につき	385.00（350+ 税）	275.00（250+ 税）
		海外 1 発送 につき	480.00	350.00

○問合せ
国立国会図書館利用者サービス部複写課
電話 03(3581)2331(代表)

新刊案内

レファレンス 893号

農産物・食品の適正な価格の在り方をめぐる欧州の動向

地球環境問題の解決に向けた持続可能な発展―段階

別モデルから見た今後の環境政策への示唆―

デンマークの国民投票―法制度と実施状況―

我が国の造船政策の変遷と諸外国の動向―中国、韓国及び欧州の取組を参考に―



A4 88頁 月刊 1,100円（税込）
発売 日本図書館協会

カレントアウェアネス 364号

学校における電子書籍貸出サービス（電子図書館）の現状と公立図書館との連携

国立国会図書館による博士論文収集の現況と課題

2025年調査

国立国会図書館におけるクラウドサービスへのシステム移行

△動向レビュー▽

日本の図書館におけるチャットサービスの導入について

PMCの動向：オープンアクセスリポジトリのベストプラクティスとして

アフリカにおけるオープンアクセス・オープンサイエンスの現在



A4 28頁 季刊 440円（税込）
発売 日本図書館協会

入手のお問い合わせ

日本図書館協会

〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14

電話 03(3523)0812

おもな人事

〈退職〉

令和7年3月31日付け

専門調査員 調査及び立法考査局国土交通調査室主任

内田 竜雄

専門調査員 調査及び立法考査局文教科科学技術調査室主任

ローラー ミカ

〈異動〉※（ ）内は前職

令和7年4月1日付け

専門調査員 調査及び立法考査局総合調査室主任（専門調査員 調査及び立法考査局総合調査室付）

塚田 洋

専門調査員 調査及び立法考査局政治議会調査室主任

小林 公夫

専門調査員 調査及び立法考査局憲法調査室主任、政治議会調査室主任兼務

小川 公夫

専門調査員 調査及び立法考査局経済産業調査室主任

奥山 裕之

専門調査員 調査及び立法考査局総合調査室主任

秋山 勉

専門調査員 調査及び立法考査局文教科科学技術調査室主任（電子情報部長）

伊藤 克尚

専門調査員 調査及び立法考査局総合調査室付（調査及び立法考査局海外立法情報調査室主任）

南 亮一

専門調査員 調査及び立法考査局海外立法情報調査室主任（専門調査員 調査及び立法考査局海外立法情報調査室付）

内海 和美

専門調査員 調査及び立法考査局国土交通調査室主任

遠藤 厚志

専門調査員 調査及び立法考査局憲法調査室主任

佐々木 弘通

電子情報部長（総務部副部長）

藤本 和彦

総務部副部長、総務課長事務取扱（総務部副部長、会計課長事務取扱）

田中 智子

総務部副部長、企画課長事務取扱（総務部副部長、総務課長事務取扱）

川西 晶大

総務部副部長、会計課長事務取扱（司書監 利用者サービス部付、サービス企画課長兼務）

小熊 美幸

総務部副部長（主幹 調査及び立法考査局社会労働調査室付）

恩田 裕之

主幹 調査及び立法考査局付、国会分館長事務取扱（利用者サービス部副部長）

野口 貴弘

主幹 調査及び立法考査局海外立法情報調査室付（主幹 調査及び立法考査局総合調査室付）

河合 美穂

収集書誌部副部長、収集・書誌調整課長事務取扱（総務部副部長、支部図書館・協力課長事務取扱）

立松 真希子

電子情報部副部長（総務部副部長、人事課長事務取扱）

兼松 芳之

司書監 総務部付、主任司書兼務 関西館付（主任司書 収集書誌部付）

大柴 忠彦

利用者サービス部副部長、サービス企画課長事務取扱（電子情報部電子情報企画課長）

伊東 敦子

7/8

NATIONAL
DIET
LIBRARY
MONTHLY
BULLETIN
2025.7/8

NO.771/772

JULY/AUGUST
2025

CONTENTS

- 01 <Book of the month - from NDL collections>
"Kaiju jikkentan" in *Otogi teburu*: In pursuit of dinosaurs
- 06 60th Committee on Designation of Rare Books
Materials recently designated as rare books
- 12 Science and technology:
AEC Engineering Materials and Drawings
- 18 The History of Expos—Digital exhibition:
Expositions where the modern technology of the times was exhibited
- 17 <Tidbits of information on NDL>
Binding newspapers with artisanal bowknots
- 23 <Books not commercially available>
Takehisa yumeji no bijinga to modan dezain: Utsukushi mono · kawai mono
- 24 <NDL Topics>

国立国会図書館月報

令和7年7/8月号 (No.771/772)

令和7年7月1日発行

発行所 国立国会図書館
編集者 田中智子
責任者

印刷所 株式会社丸井工文社

〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1
電話 03 (3581) 2331 (代表)
FAX 03 (3597) 5617
E-mail geppo@ndl.go.jp
<https://www.ndl.go.jp/>

本誌に掲載した論文等のうち意見にわたる部分は、それぞれ筆者の個人的見解であることをお断りいたします。
本誌に掲載された記事を転載する場合（全文または長文にわたり抜粋する場合、または図版を転載する場合）には、
事前に当館総務部総務課にご連絡ください。
本誌517号以降、PDF版を当館ホームページ（<https://www.ndl.go.jp/>）>刊行物>国立国会図書館月報でご覧いただけます。



NATIONAL
D I E T
LIBRARY
MONTHLY
BULLETIN
2025.7/8

 国立国会図書館
National Diet Library, Japan

図

国

国

冊

人

士